

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）3

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43774

孝知口文(1.1.1)

極 秘

大臣 次官 事務次官 中大臣	事務次官 次官 次官	事務次官 次官 次官
-------------------------	------------------	------------------

201-30 条約の ③ 米局長の ③ 在米大使

愛知大臣、マヤ一大使 会議 (沖縄返還問題)

K.F. 8. 28

朱比一長

有 28日 午後4時30分より6時10分まで 両省大臣接見室
においで 行なわれた 会議 概要 次の通り。(先方

スチール公使、ウヰル通使、当方 事務次官、事務次官
、比朱比一長 同席。)

1. 交渉の原則的了解

(1) 大臣の事務レベル交渉の進展に碍なく、右交渉
は 現行の安保条約が 関連取極の体系に

適用され
その中の枠内での解決を、コソコソという形式
での 総理談米の際に 結着をつける 等の 原則的

了解の下に進められたいと確認(在りて)発言。

(2) 大使より、米側としては G32=4 が 補足的な保証 (SUPPLEMENTAL ASSURANCES) の文句に

7112 の合意により 沖縄返還 ^{着手} される出来ると主張している。なお 議会に対し 具体的に

如何なる手続をとるかは未定であり、

(3) 大臣は 2-3 の案に 7112 の合意を 5711 があり、

2つを 5711 で解決し得る部分は 総理の対国会、大蔵省の対議会説明で

補充するとも有り得、かつ 意味合いと理解に 243 と 発言(在りて) 大使は 以上のほか 秘密の

(は 告知 避けたらと 7211 等)

了解 ^が 必要と なる かも知れないと 述べて、2つに 対し 大臣は 秘密の了解は 現在も 2つを 欲

124 あり とも 明らか した。

2. 実質問題に関する大臣所見

大臣は問題点として①戦闘作戦行動に関する考之方②ソ連
と戦争が迅速解決を求めた場合の扱い③核問題 ~~は~~ ^が

以下の如く述べたと共に 別の観点より韓国・国府に
対する日本の工作の可能性の問題に言及し、目下総理

にも上申に検討中であるが未だ成否はないと述べた。

(1) 戦闘作戦行動に関する考之方

(イ) 朝鮮半島

(a) 大臣は①日ソ交渉と総理が自らの公徳におおしき
より朝鮮半島に武力戦争が起ると日本の安全に影響する

② 韓国の静穏の保持は日本に与り大問題であると述べたこと
想起に② 今回の日韓閣僚会談で「崔外務部長官が

朴正熙会談で米例に準じて韓国は米韓条約 ^{の承認} ~~を~~ ^を 自認を通じて
も二重の対韓防衛コソトナトを認めたと述べた旨を内記

の上ニテ充分留意方ニ要望有リ(ニト、^ル日韓共同コニ
ニテモ一言沖繩ニ言及セリ(ニト、③ 昨27日米側ニ手交

ノ共同声明享年ニわが國ノ朝鮮半島ニ付テハ肉心ト苦心カ
以テ出テリ(ニト、但シ主權國トシテ留保ニテハ予前協議ノ

権限有リ新ニGIVE AWAY 対応コニテハ明地シ得テ(ニト
左述ハ右ニ日本側ノ見解ハ充分理解ニテ(ニト要望シテ。

(b) 次ニテ大使ノ意向ニ答ヘ大臣ハ日韓會談後^(内閣)ニ崔長官ハ
返還後ノ沖繩米軍ノ外務援助能力低下云々ニテ遺憾

^{カ具体的ニ}觸レテ、尤^{ノ行政的考慮}ニ①米韓系約ノ~~米國~~下ノ地域、中ニ
沖繩)カ含まれており返還後トウ有るか、日本モ考えニテ(ニ

ニト②日韓間ニ安保条約ハ存シテ其ノ締結モ考メテ(ニ在リカ
^{ル日米米韓間}兩國ノ陸國ニ信託條約^{ノ夫レノ}締結ニ付テ中ニ包含セテ

工夫ヲテ(ニ見取ルカ^ル以テ(ニ^ル必要シ(ニトモ明カニシテ。

(c) 大使ハ無責任カ危険ニ北緯ノ憂感下韓國人カ

「通説（中絶）は 3年協定の制約、特に時間がかかることにより
（米国の 有るの際の）の対韓援助能力の有効性特に

即時性を大幅に低下せ、以て北鮮の改革を招き出す
てはないかと^の懸念^を持っていることでもあり、韓国政府協力の

米越公人は韓政府の一方を痛感していること述べ、米国の
有るの際 韓国以外 援助能力はなく、かつこの援助を即時

必要であると主張した。二点に対し 大臣は 韓土並みにかも
韓国にかかり心配をさせない 様にするのが 当然の考えである

り、上記の対韓、対国府の考えは 二つ異なる考えであること、両
政府ともわが国に比し 最も大なり 相互理解を国府に促すこと述べた。

(b) 台湾

大臣は 韓国と異なり 台湾は 単に防衛のみ問題か

なく、先般の口論で 長官は 自の際述べた 米軍の
後の 7ヶ年大規模等の発言に 教見を述べたことより

米国の対中政策態度の柔軟性を増やした如く、従って
 自分にも同様の態度で「中共と余の対戦」するべきと述べた。

た。この英文言・文法方式の如く昨日の日本家で「これは
 二つ以上が出来る」と発言した。

(2) リベラリズム戦争が過渡時^に引き^かかる場合

大塚の英文言・文法方式につき自分も~~等~~等と考慮中であるが、

当面参考までに、米例の肚一杯の考え方を述べたい。
 勿論その上、受入れたらならぬ、と要請した。

(3) 核問題

大塚は二つ以上言ふ事はなく、原爆唯一の被害国

として、非核三原則は国民中に定着している特殊(慣習)
 の理解を求めるとに盡きる、と述べた。

(4) 右の大塚 9月12日の外長官との会談では、昨日の
 日本軍の考え方の理解を求めると述べた。

3. 實質問題に關する大使所見

A. 大使が大臣の明快な所見表明を謝(在上, 1) 問題は又その
の案定上 ● 必要な事と政治上の問題を如何に

調整するかにあるが、自分とこれと有件が華國の対
韓, 台, 中, 日とのコミットメントの遂行能力を害す (IMPAIN)

ことを欲(2) たいことを確信(在り)。他方有件が
公開の文書で主権に關して又新協定を云ふこと

は問題があることを理解(在り) が、もとより華國とこれと有件
主権を害す気は毛頭(在り) ない(主権の枠内で解決したいと述べた
後、以下の如く述べた。

(1) 韓国

~~如左~~ 38度線は日南緯^{北緯}防衛力一線であるが、

韓国に關する文書は未だ曖昧で~~新協定の趣意~~
~~新協定の趣意は、北緯38度線は日南緯防衛力一線であるが、~~
~~新協定の趣意は、北緯38度線は日南緯防衛力一線であるが、~~
~~新協定の趣意は、北緯38度線は日南緯防衛力一線であるが、~~

~~あり~~

(3) リーグナム

1992年までの締結を希望（2013年自通し）が不明の

現在、米国内で「=7432政府は進んで在越米軍支援能力を低下せんとし、この政治的攻撃を可能

にする如きこと以外論外で、23=4と一方の宣言の非公開
了解が^同米能力が低下せしむることとはならず、大敵国が
(適度の延期が軍事行動継続の1174にせよ) (せ)

この旨 議会に言及する方針は（仮）には存在しない。

(4) 撤兵問題

自衛隊の新に申上りする所は、特に沖縄の撤

兵の抑止能力・戦力の双方を低下せしむこと、Aの撤去の7112 何ら決定されず、この点を再々申上りた。

B. 以上12村（大匠）が率直に言及、韓国、台湾の7112
意見は大部分合致するが、考へるに得るは存在しないと思ふ

述べて後、^等リーグナムは7112 次期に話し合つた。

(1) 大塚のウラタムに2112は 通達時 邦の 総結^とを促す
(CEASE FIRE と表現)

行なわぬか、私見ではあるが、米国の世界政策に与るべく
72年邦に 総結とせしむの 意思表明 を「世界的な
(O 米会誌 1115)

舞台 (右とウラタムと直接関係なくとも) で行なうことは
有意義ではないか、総結した場合 どうするかと書かれた

総結の意思を報ぐ「印象を不之よう」と述べた。

二九二九の 大使より 1111と1212 米国内^{一部}世論の反
(邦の CEASE FIRE への支持は邦に与る物考ふかと疑問、大塚が怒り出す名2の7)

時、邦の米の諸友好の支持躊躇するありしに、米國
がいかに GIVE UP するべきを期す(2112)か、ニクソン

大能征以下米國は 何年かいても名譽ある 総結の
実現に努力する^{と信ずる} 同時に 1117 会誌以外では

米報の 2万5000人 救済の如く 行江スルニ2112に7924

合理的な 427を 取す^とを 惜しむ^との2114 右と付書した。

(2) 大臣は抽象的政治論ばかり、日本の内政上経済問題加自らの要求する線に解決の軌道にのつたといふ

こと以外、日本人の対米観は劇的に好転し、選挙の自民党が予想以上の大勝を博したことを確信したこと。

日本国私権保護問題の友好的解決を可能にするといふものがあるといふことは一大成果である、と述べた。

大使は、米国の日本国内に友好的な状況（FRIENDLY GOVERNMENTAL SITUATION）の維持を

希望するからと、総理訪米で解決（といふこと）をいふ旨を表明した。

4. その他

(1) 今後の進め方

大臣は 1967年の総理訪米時³²⁹に~~は~~、³²⁹この作業は~~は~~唯一真正除根に出来上つたといふこと、

今月10-23日、早稲川と30日定例の両方
が満足な結論に到達し得た、に決した
(7/1)

各表表明(左) (先方交渉の交渉)

(2) 日米経済問題 (別途記録)

大塚氏経済問題の交渉、先方から費用が

大塚氏に示唆された、要するに先方から別々に
交渉するに承知していると述べている、大塚氏は

先方とは交渉以下と述べている、^{半田路は}沖繩内閣と経済
ONE PACKAGE 視しては、財界の大物に交渉
先

大塚氏に「日米貿易交渉は、先方から沖繩に
交渉するに、要するに先方から交渉するに
先方以下と述べている

本問題の交渉は、経済製品の交渉と別途
記録の如く述べている。

(3) 總理訪米時期 (別途記録)

(4) ポリシ対策

双方協力の結果、^{（防衛省）}「大規模に備えられ

の進展より正に検討した。現在その^{（防衛省）}主要作業は

232-24の骨子の作成である。^{（防衛省）}（防衛省）

（防衛省）（防衛省）（防衛省）（防衛省）（防衛省）
極東の安全保障に對する米国のコミットメントの観点

より返還後の基地使用に對して検討した。また大規模
の核問題に對する日本の立場を表明し、^{（防衛省）}大規模

^{（防衛省）}信頼に足る核抑止力

米国の依然 極東に (CREDIBLE NUCLEAR DETERRENT)

を有し 必要ありと訴えたい旨 明瞭に述べた、といた

説明を 行なう こと 合意。

(5) 右大規模 = 74-2 大規模 最近の 外務 内閣 閣議

資料を 参考し、昨日 閣議 中 閣議 決定 あり こと 決定 あり

上院 院議 あり こと 決定 あり、74-2 外務 閣議 決定 あり こと 決定 あり

秘密表示(朱印)
極 秘
 無 期 限
 部 の 内 号

録
長
直
扱

部数指示	発信用	執務用	備 考
主 信	1	0	1
付		30号	
属			

至 急

発 送 日
 処 理 日 昭和44年8月29日
 発 信 校 査

文 書 課 長 (印) 公 信 案 (分類)

公 信 番 号 米地 第 1164 号 公 信 日 付 昭 和 44 年 8 月 29 日

大 臣 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 参 事 官 北米第一課長	起 案 昭 和 44 年 8 月 29 日 起 案 者 千尋 電 話 番 号 443
--	----------------------------------	---

協 議 先
 条 約 局 長 已 済

受 信 者 在 米 下 田 大 使	発 信 者 夏 知 大 臣
----------------------	------------------

写 送 付 先	(希 望 発 送 日) 月 日
---------	----------------------

件 名
 沖 繩 同 題 記 録 送 付

GA-2 外 務 省 回 覧 番 号 1988

米北才1164号

昭和44年8月29日

在米大使殿

外務大臣

沖縄問題記録送付

28日、本大臣とマサハ大使との合談
記録写し一部選別添送付す。

なお、本件は外部に対し厳に秘密に
いたすこと、取扱いには充分留意されたい。
念のため。

付属添付

税関の調査は改めてギン株し、引当金はその補償が決り次第、できるだけ早く取返したい。

(フクダ大臣) 正式に巻附が決れば、この計画が実現できるように資金面でも最大の協力をしたい。

(岡) 税関は国家の安全確保のための努力をしているが、その反面、経済面にも努力している。日本はこれについてどう長期的に考えているか。また、これとの関係についての貿易不均衡についてお聞きしたい。

(アイチ大臣) 日本は有償、無償の協力を努め、税関側は従来のフク株のものであり、日本の意欲を改わしている。憲法上制約されているから軍事的には協力できないが、経済的な、技術的な方面における協力を努めたい。

(大平大臣) 貿易の不均衡については、日本国内の産業政策との関係で考えて行きたい。必ずしも税関側の期待を完全に満たさないことはおぼかんであるが、えい意協力したい。

2. アイチ大臣記者会見 (28日、マイヤー大使と会見)

(大臣) 出席者は、先方がマイヤー大使とスナイダー公使、こちら側は私のほかトウゴウ局長とチバ局長。

内容は、9月12日のアイチ・ロジャース会談を準備す

るための会合であり、そのためにと進行なわれていたスタン
イダー・トウコウ会合をシクとして双方で承認したとい
うことである。

最終的に11月のSOMETIMEと決められている
型とニクソン大統領との会合の際の共同声明のこつ子とな
るべき事項をこつめて、問題を整理することであり、従っ
てペーパーとえんぴつをこつて承認したわけではない。

米側は、協かん後のオキナワの島嶼について、米側とし
ては韓国等に対するコミットがあるので、協かん後にも必要
な際にはどうすれば使えるのかということに十分な配慮を
してもらいたいと考えているので、これを体して整合つて
もらいたいと希望を述べた。

島嶼については、自分の方も一語あつたが、米側は、買収
止力がアジアの安定に大きな役割を果たしているので、その
ことを十分頭におさめて考えてほしいと述べた。

オキナワ交渉の問題のしろう点は、この二点（島嶼と債
）としぼられよう。通貨信勢分せきについては、双方とも
意に寄りつくしており基本的に金はいはない。

(問) サドウニクソン会合の日程は決つたか。

(答) SOMETIME IN NOVEMBERとある
ことは確かでないが、最終的にはまだ決つていない。

経済局長

共

秋

鈴木参事官

総務参事官

国際貿易部長

国際機関第一課長

国際機関第二課長



2000年10月10日

分行

秋田 秋田支店

日米経済問題

44. 8. 28

(秋田支店)

本28日午後 ~~10時~~ 15時 米務の2件一駐日大使に對し
告知大屋功 沖繩返還問題との関連で

日米経済問題に對し 米務一審問會が決定した
との示唆 大屋功大佐、受入たすか否かは別として

号等知に承知のと述べたこと、大佐は正に良しと
正論に下すた。以下次の如く述べた。

1. 米國政府といたし 沖繩返還と経済問題とを
一つのPACKAGEに入れた方が好ましいが、米材界

の大物で大能信に對し「米食料11%の戻後
沖-沖繩に對し 功を了すた。米食料に對する。

二とは「3」まで、大総領以下に於いては「11」が
両問題16の「コネクション」があるとは不意な事案に。
(4行)

2. 今年の日米貿易交渉は「2」は半分以上は「1」の交渉
と有る見込みで、貿易交渉の両分野での自由化

は ~~「1」~~ ^{「1」} 関係の問題である。特に繊維
問題が重要で、先般「4」は、加3ヶ所の下位

の ~~「1」~~ ^{「1」} 交渉は、最近選挙区の一部は、
工場が「3」も、外国との競争に堪えかねて

閉鎖の已むを得ない有り、工場は ^{「1」} 日本との競争に敗れ
60万ドルの売上を失った由である。その結果

切実な問題が起る政治界からの圧力が「4」
大総領に重くかかっているのである。

3. 日本対米繊維輸出は年々40-50億ドル
90%の率で日本にあり、先般「4」は日米の大役
(5行)

から1911年と1913年では同国の対日輸出の大宗は
繊維機械の由り、⁽¹⁹¹⁴⁾の活字版設備等から

米市場をFLOOD打ぬてあるとの印象を受4213。
米國と124日市の繊維産業を競争するに及ぶ

また対米輸出が毎年適正規模を伸びるに
1.1%増しは有。 (1914 FLOODは用3. ~~2020~~)

米國4)

4. 繊維輸入を起すに11年唯一の国であるが
と12%増しに及ぶと聞。米國の米穀

113%の何等かの一時的措置に過ぎないが
若し2次が成立する44%、繊維輸入制限

立法の必要である、か(1914) (1914) 自動車等他品目
への課税は米國の要がある。米國は113

方向に行きは、他の国々も対日差別が易く
有ると見ても可い。